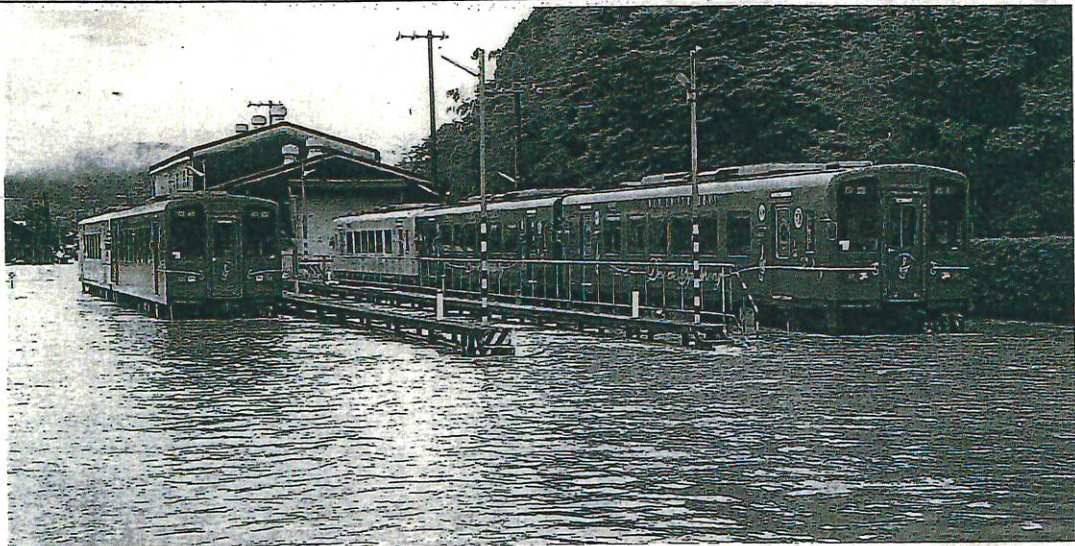


くま川鉄道に支援の輪



熊本の三セク 橋流失や車両浸水 「高校生の足守る」社長奮起

豪雨で被災したくま川鉄道の車両(4日、熊本県入吉市) 同社提供

熊本県を走る第三セクター、くま川鉄道が豪雨による橋の流失や車両の浸水などの被害を受け、復旧のめどは立っていない。かつての国鉄路線を引き継いで1989年に運行を始めて以来、赤字経営が続く。財政の余裕はないなか寄付を呼び掛ける支援の動きが広がる。永江友二社長(56)も「高校生の足を守る使命がある」と奮起する。

くま川鉄道はJR入吉駅に隣接する人吉温泉駅前町の24・8キロを結び、利用者の約8割を高校生が占める。JR九州の豪華寝台列車「ななつ星九州」を手掛けた水戸岡鋭治氏がデザインした車両を用いた観光列車「田園シンフォニー」を走らせ、球磨川沿いの風景を堪能できる。

永江氏は災害を乗り越えた鉄道や、くま川鉄道への支援の動きを「復興に向けた糧にしたい」と強調する。

光明嬢(めいび)な車窓を自当てる観光客が訪れていた。

豪雨で国の登録有形文化財の球磨川第四橋梁が流失し、在籍するダイヤル車両5両全てが浸水。くま川鉄道の2019年度決算は本業の損益を示す営業損益が846万円の赤字で、同社は

「鉄道は地域の財産」 熊本 田村・まじま氏被災地調査

(20.7.23)

一連の豪雨で甚大な被害が発生し、不通が続く熊本県の「肥薩おれんじ鉄道」と「くま川鉄道」の現状を調査しようと22日、日本共産党の田村貴昭衆院議員、まじま省三前衆院議員が同県芦北町と同人吉市の被災現場を調査し、鉄道側から要望を聞き取った。



土砂崩れにより不通となった、おれんじ鉄道を調査する(左から)田村、まじま、山本、橋本、坂本、平岡の各氏—22日、熊本県芦北町

田村氏は「鉄道は地域の財産。復旧には国の果たす役割が重要で、国土交通省に現状を伝え、一日も早い復旧に覚悟を伝えて全力を尽くします」と答えました。

調査には、松岡勝寛熊本県委員長、山本伸裕熊本県議、橋本徳一郎・八代市議、本村令斗・人吉市議、平岡朱斗・水俣市議、坂本登・芦北町議らが同行しました。

おれんじ鉄道は、大規模土砂崩れなど45カ所以上で被災し約400人の高校生らに影響。くま川鉄道では、球磨川の氾濫による橋梁(きょうりょう)の陥落や線路の土が流れ

出る状態などの被害が発生しました。利用者の約8割の高校生約850人にバス振替輸送などの影響が出ています。

くま川鉄道の永江友二社長は、高校生の影響を最小限にと高校側と連絡を取り合い柔

「日経」20.7.20